

（様式3－7）

白丸団地／計画コンセプト

海と大地に囲まれて暮らす、「の」の字プロムナード



白丸団地は海を望む高台にあり、周囲には豊かな農園風景が広がります。恵みの海と恵みの大地の双方に抱かれ、豊かな自然環境を享受できることがこの団地の魅力です。公園を中心に「の」の字型のプロムナードを描き、これを囲むようにニコイチ（2戸1）長屋を配置します。住棟はゆるやかな環をなして公園を共有し、日常の中で自然に顔を合わせるコミュニティを育みます。公園南側には「しろまるプラザ」を設け、公園からしろまるプラザを介して海を望む眺望軸を計画します。プラザは多様なアクティビティに対応し、公園では収穫祭やバーベキューなど「食」をテーマに人が集う場とします。さらにプロムナードは周囲の農道へと連続させ、田園風景を楽しみながら交流できる場を設けます。

1. 入居者の利便性と快適性の確保

全住戸「南向き」の配置計画 自然採光・自然換気を推進

- 1-1 主要な居室（LDK）は南向きとします。軒の出を深くし、夏期には日射抑制、冬季には自然採光を行うなど、季節に応じた快適な光環境を確保します。
- 1-2 各住戸の南面にサンルームを設け、冬季であっても快適に洗濯物を干せるよう配慮します。サンルームは（L）DK から直接アクセスできるようにすることで、家事動線を短縮し、家事負担を軽減する計画とします。
- 1-3 卓越風を取り入れやすいよう窓の配置を計画し、春秋等の中間期には空調に頼らず自然換気による快適な室内環境をつくります。軒を出すことで、雨天時にも窓を開放でき、快適な空気環境を確保できる計画とします。
- 1-8 南北の隣棟間隔を十分にとり、冬季においても十分な日照を確保します。特に南側の建物が北側の建物に影を落とさないよう配置を工夫します。

雨や雪を配慮した住棟への駐車・駐輪・アプローチ計画

- 1-4 駐車場は複数の住棟でまとめて集中型で整備し、道路からの直接駐車を避け、切下げ箇所を減らすことで、安全で利便性の高い計画とします。各住棟の入口から近い位置に計画し、冬季の除雪を最小限になるよう工夫します。あわせて予備駐車スペースを確保し、来客やデイケアなどの福祉サービス、冬季は排雪スペースとして活用します。ごみ置場は1箇所10世帯を目安に、利用しやすい道路付近に計画し、入居者の利便性を確保します。
- 1-5 玄関は共用ポーチを介してアクセスする計画とし、十分なスペースを確保することで、雨・雪・風の影響を最小限とし、快適に住戸に出入りできるようにします。玄関前には目隠し格子を設け、住戸内部のプライバシーを確保するとともに、風除けとしても機能させます。

入居者のプライバシーへの配慮

- 1-6 強風やプライバシー確保が求められる部分には、能登ヒバによる板塀や地域の樹種による植栽を緩衝帯として設けます。地域的景観をまもりつつ、入居者および隣地間のプライバシー、安全性に配慮します。
- 1-7 界壁の遮音性を TLD-55 相当以上を設計目標とします。隣戸間におけるプライバシーを確保し、子育て世帯においても安心して居住できる環境を構築します。

2. 入居者の安全ならびに周辺・隣接地への配慮

防犯対策や入居者の避難、消火活動への配慮

- 2-4 十分な隣棟間隔を確保することで、見通しを良くし、防犯性を高めるとともに、消火活動をやすくし、同時にプライバシーを守ります。各住戸が相互に見守られながらも、過度に干渉されない環境をつくります。
- 2-1 防犯対策として建物周囲を瓦チップ敷とし、音が出ることで侵入を物理的・心理的に抑止します。あわせて見通しのきく住棟配置とすることで、昼夜を通じて周囲の目が行き届く安全な団地環境をつくります。
- 2-2 主要な居室（DK/LDK）に掃き出し窓を設け、2以上の避難経路を確保する計画とします。窓先にはテラスと緩やかなステップをつくり、火災時には高齢者や障害者においても安全に避難できる計画とします。
- 2-5 各住戸から道路まで幅員 2m の敷地内通路を確保し、舗装仕上げとすることで、敷地内の安全な避難経路を確保するとともに、火災発生時に消防隊の活動が円滑に展開できるよう計画します。「の」字ループは 4m 幅員を確保し、消防車が乗入れできる仕様とします。
- 2-3 住戸内の住宅総合盤およびトイレに警報ボタンを設置し、緊急時にはインターホンから外部に通知するとともに、外壁に設置した赤色灯で警報を表示します。これにより隣人が容易に救助に駆けつけられる環境をつくり、高齢者世帯の安全性にも配慮します。

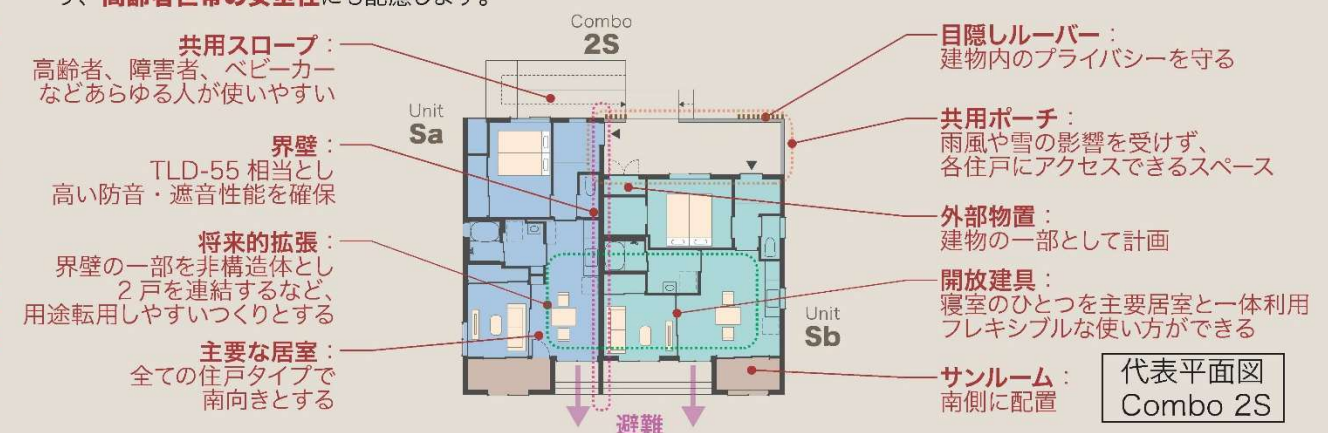
3. 高齢者等への配慮・コミュニティ形成への配慮

高齢者・障害者・子育て世帯への配慮および健康増進

- 3-1 建物へのアプローチは原則、段差がないつくりにします。ポーチ周りには原則スロープを設け、高齢者、障害者、ベビーカー利用の子育て世帯にも使いやすいつくりとし、手摺を設けます。プロムナードや公園の階段はゆるやかな階段とし、高齢者や子どもにも安全です。段差部分については複数のスロープやルートを確保し、体に負担のない移動を実現します。
- 3-2 廊下幅を広めに確保し、高齢者・障害者でも心理的な圧迫感なく容易に移動できる計画とします。
- 3-4 主要な居室（LDK）に隣接する寝室は開放型建具とすることで、高齢者の介護スペース、乳幼児の静養室として活用でき、高齢者世帯・子育て世帯が人生段階に応じて柔軟に利活用できる計画とします。
- 3-6 「の」の字プロムナードを入居者が毎日散歩できるようにし、日常的な健康増進に寄与する計画とします。
- 3-7 地域の特性と連携するため家庭菜園スペースを設け、高齢者の健康増進・認知症予防に寄与します。

良好なコミュニティを形成する工夫

- 3-3 「の」の字プロムナード、公園、しろまるプラザなど人が自然に集まる場所にベンチを設け、入居者や来訪者の憩いの場をつくり、コミュニティ形成の契機となる場をつくり、共助の関係を育みます。
- 3-8 団地の南側に「しろまるプラザ」を計画し、公園から海への眺望軸を確保します。公園には水場を設け、野外炊飯やバーベキューなど「食」を通じて居住者・地域住民が交流できるスペースを設けます。しろまるプラザはゆとりあるスペースとし、ラジオ体操やサンセットヨガなどの健康増進活動、緑日等のイベントスペースとし、キッチンカーが乗り入れ可能な仕様とします。



(様式3-7)

白丸団地／サブテーマ

復興のその先へ ― 永きにわたり住み継がれる白丸団地をめざします

- x-1 3団地共通
主に白丸に詳述
- x-2 2団地共通
- x-3 固有項目

5. 景観形成への配慮

全体計画における工夫

- 5-4 農地に囲まれた立地を活かしたルーフスケープとし、公園南側から**海・空への眺望軸**を通します。
- 5-3 植栽は寒冷地に適応し、四季を通じて彩りがあり、虫がつきにくくメンテナンスが容易な樹種を選定します。**能登キリシマツツジ**など地域の在来種に加え、初夏の花・秋の紅葉・赤い実で四季を彩る**ナナカマド**、常緑で目隠しを兼ね成長が緩やかな**ソヨゴ**、能登の里山景観に調和する**ヤマモミジ**などを採用し、**管理負担を最小限に抑えながら四季の変化を楽しめる**計画とします。

住棟計画における工夫

- 5-1 地域資源を活かした建築材料・樹木を選定し、地域景観との調和を図ります。**復興公営住宅が周囲の豊かな景観に違和感なく溶け込む景観形成**を目指します。
- 5-2 外壁は**能登ヒバ**による**板張り仕上げ**と**白壁**を採用し、屋根は**大型和瓦**とします。能登ヒバは地域の伝統的な建材で、林業振興にも繋がります。また、能登瓦は現在製造されていないため、**同等の材質・外観を持つ和瓦を選定**することで地域景観の保全・継承を図ります。



6. 環境負荷・ライフサイクルの低減等への配慮

全体計画・住棟計画における工夫

- 6-1 **県産材・和瓦・能登ヒバ**などの地域材を外装から内装まで活用し、**地産地消で建設時CO2を削減**します。
- 6-2 **高い断熱性とパッシブ手法**の採用により、**一次エネルギーを抑制**します。軒で日射制御、自然換気で快適性を確保します。
- 6-3 寒冷・多雪地対応として、**深い軒先で雨掛かりと落雪対策**とします。屋根には雪止めを設け、居住者と歩行者の安全性を高めます。
- 6-4 費用対効果の高い**断熱等級5**を取得します。自然換気と空調の組み合わせで**年間空調負荷を抑えます**。
- 6-5 各住戸に**雨水タンクを設置**し、平常時は散水、**断水時はトイレ洗浄**に活用します。敷地内緑化で**ヒートアイランド対策**を図ります。
- 6-6 土量を総合管理することで**搬出土・搬入土を最小化**し、**建設コストと運搬CO2を削減**します。



4. 長期にわたり町の財産として有効活用できる工夫

メンテナンス・改修・用途転用しやすい計画

- 4-1 汎用性が高く、**改修や用途転用が容易な木造在来軸組工法**を採用します。大規模改修や間取り変更が可能な構法とすることで、**復興期を終えた後も、長期間にわたって建物を様々な用途で活用できる計画**とします。
- 4-2 **界壁の一部を無柱とし、界壁を撤去することで隣戸と一体化させることが可能な計画**とします。将来的には2戸を連結して4LDKなどの**多世帯型住居**に変更したり、

事務所や小規模施設へ用途転用したりすることで、**復興期後も長期的に利活用できる計画**とします。

- 4-3 **天井裏・床下**に十分な**メンテナンススペース**を設け、**配管・配線の更新や増設**を容易にできるよう工夫します。あわせてメンテナンス負担の軽減を図るため、軒先を深くすることで**外壁の雨掛かりを減らし耐久性を向上**させるほか、**高耐久の木材保護塗料を採用してメンテナンスサイクルの長期化**を図ります。さらにシンプルな屋根形状とすることで**雨漏りリスクを最小化**します。

復興期を終えても「町の財産」となる工夫をします

- 4-4 海を望み畑に囲まれた**自然豊かな立地**を活かした全体計画とします。復興期としての公営住宅の活用は15～30年程度が想定されますが、この時期を経た後も、**のどかな環境を活かし、都市部からの移住促進**の拠点となることを目指します。
- 4-5 **家庭菜園スペース**をもうけ、移住定住の目的においても有効に活用できる計画とします。しろまるプラザや公園は**交流イベントを開催**しやすい設えとし、**移住者が地域コミュニティに馴染みやすい計画**とします。

（様式3-7）

松波第2団地／計画コンセプト

2つのシイの木 — 内浦の記憶と、復興の未来をつなぐ



松波第2団地の北側の公園には、かつての**内浦町役場の名残であるシイの木**が今も立っています。役場は合併により解体されましたが、地区センターやキッズセンター、公園がのこり、**地域の中心を形成**しています。本計画では、**団地中央の広場にもシンボルツリーとしてシイの木**を植えます。**まちの歴史を伝える既存のシイの木と、復興を象徴する新たなシイの木**。二つのシイの木は「**内浦**」と「**復興**」、という**二つの時代をつなぐモニュメント**となり、**世代を超えて地域に愛され、後世へと継承されるまちのシンボル**とします。この「シイの木広場」を計画の核に据え、県道側の**まつなみアヴェニュー**（団地内通路）、公園への**プロムナード**（歩行者通路）、芝生広場、イベントスペースを広場へと結びます。広場を中心に各エリアが集まり、住民が日常的に行き交うことで、**永く住み継がれるまち**をつくれます。

1. 入居者の利便性と快適性の確保

全住戸「南向き」の配置計画 自然採光・自然換気を推進

1-1 1-2 1-3 ※白丸団地に詳述

サンルームと主要な居室（LDK）を南側に計画します。深い軒で日射と採光を調整します。卓越風を活かす窓配置で**中間期は自然換気**を実現します。

1-6 南北の隣棟間隔を十分にとり、**冬季においても十分な日照を確保**します。特に南側の建物が北側の建物に影を落とさないよう配置を工夫します。

1-7 3戸イチ・4戸イチの**中住戸**は、**凸型平面や南屋根を高くすることで日照確保**を行います。

雨や雪を配慮した住棟への駐車・駐輪・アプローチ計画

1-4 1-5 ※白丸団地に詳述

雨雪対策として、玄関先に**共用ポーチ**を計画します。**駐車場は集中型**で利便性と冬季除雪に配慮して、**玄関との距離が近くなるように配置**します。**予備駐車スペース**は**来客・福祉車両や排雪**に活用します。

入居者のプライバシーへの配慮

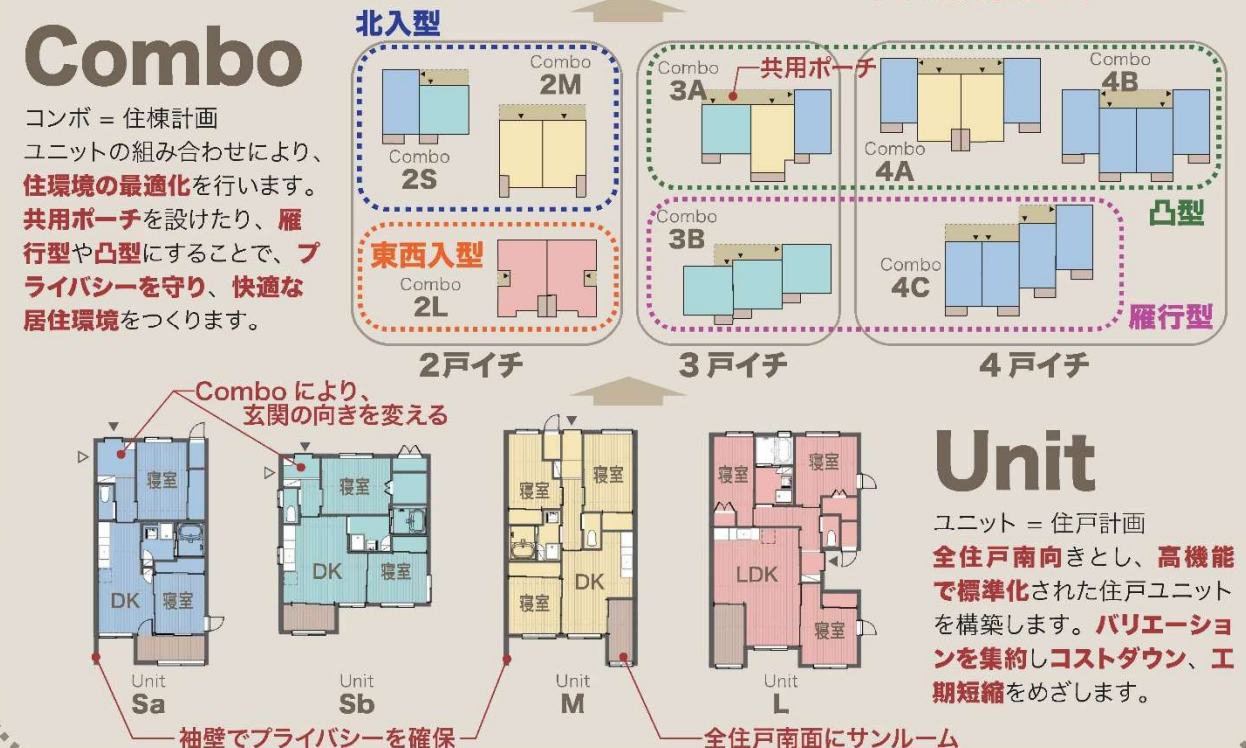
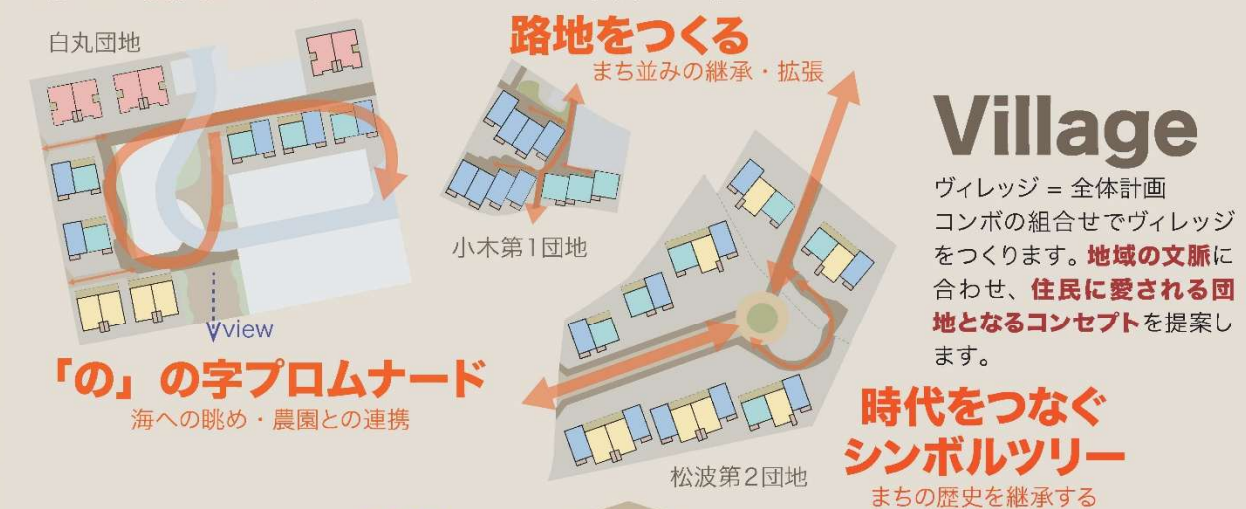
1-6 1-7 ※白丸団地に詳述

能登ヒバの板塀や植栽を緩衝帯として設け、**景観・プライバシー・安全性に配慮**します。**界壁の遮音性はTLD-55以上とし、プライバシーを確保**します。

3団地共通／計画手法について

有機的連携が生まれる計画手法を提案

平屋型の公営住宅の計画は、住戸、住棟、団地と3つの階層にわけて計画を進める必要があります。この提案においては、住戸を**Unit**（ユニット）、住棟を**Combo**（コンボ）、団地を**Village**（ヴィレッジ）と称し、それぞれ**階層における目的や理念**にもとづいて計画を行います。**コンパクトでありながら多様性があるまちづくり**を進めます。**地域的特性を活かし、有機的なつながり**があるまちをつくるための計画手法を構築します。



（様式3-7）

松波第2団地／サブテーマ

新たなまちづくりの起点として、集い・憩い・くつろぐ広場を計画します

2. 入居者の安全ならびに周辺・隣接地への配慮

入居者の避難、消火活動への配慮

2-4 十分な隣棟間隔を確保することで、防犯性を高めるとともに、消火活動をしやすくし、同時にプライバシーを守ります。各住戸が相互に見守られながらも、過度に干渉されない環境をつくります。

2-1 2-2 2-3 ※白丸団地に詳述

DK に掃き出し窓を設けて2方向避難を確保します。板塀や植栽の緩衝帯で強風と視線を和らげます。住戸に警報ボタンを設け、緊急時は赤色灯で周囲に知らせます。

地域住民にもひらかれた団地内通路・プロムナード

2-6 県道側に幅 10m の団地内通路を設け、南側エリアの住戸の接道を満たします。通路内では車路と歩行者路を明確に分け、地域の子どもたちが安全に通抜けできるルートを確認します。

2-7 南北敷地の高低差は、スロープ、緩やかな階段、地形造成で対応し、高低差を活かした外構計画とすることで居住者のアメニティを高めます。盛土を 500 m³以内にとどめることで盛土規制法の届出範囲外での計画とします。周辺の住棟への圧迫感抑制をおこない、夜間照明を設けることで安全面に配慮します。

3. 高齢者等への配慮・コミュニティ形成への配慮

高齢者・障害者・子育て世帯への配慮および健康増進

3-1 3-2 3-4 ※白丸団地に詳述

外部通路は原則段差なしとし、全住戸にスロープ・手摺を設け、高齢者に配慮します。建物内部は廊下幅を広く取って移動しやすくし、主要居室（LDK）に隣接する寝室は開放型建具として介護・子育てに柔軟対応します。

3-8 シイの木広場を中心に、地形造成、階段、スロープにより回遊できる散歩道を構成します。芝生広場はモルックやボッチャ等の高齢者向けレクリエーションや子どもの遊び場となるように計画します。子供から高齢者まで、多世帯の健康増進を促します。

良好なコミュニティを形成する工夫

3-3 人が集う場にベンチを設け、交流を促します。

3-9 支所・キッズセンター等の行政施設と連携し、若年世帯の受け皿としての役割を果たします。広場と公園・地区公民館・キッズセンターをつなぐプロムナードを計画し、地域コミュニティの中心となるように計画します。

3-10 幅広い階段はミニコンサート等の野外劇場としても活用でき、住民の憩いのスペースとします。

4. 長期にわたり町の財産として有効活用できる工夫

メンテナンス・改修・用途転用しやすい計画

4-1 4-2 4-3 ※白丸団地に詳述

汎用性が高い木造在来軸組とし、界壁を撤去可能として2戸連結や用途転用に対応します。天井裏・床下にメンテナンススペースを確保し、設備更新を容易にします。深い軒と高耐久塗装で維持管理を軽減し、長期活用できるように配慮します。

復興期を終えても「町の財産」となる工夫をします

4-6 内浦の行政中心と連携した団地計画とし、シイの木広場を地区センター・公園エリアと一体的につなぎます。震災復興を含む地域の歴史を後世に継承することで、団地が今後のまちづくりのコアとなることを目指します。

4-7 復興期を終えた後の用途転用として、子育て世帯向け住宅や NPO 団体による地域・福祉活動拠点としての活用を想定します。行政施設に隣接する立地を活かし、地域の福祉・子育て機能を補完する拠点へと住み継ぐことを目指します。

5. 景観形成への配慮

全体計画における工夫

5-4 周辺のまち並みに馴染む景観を実現します。北側擁壁の段差は、盛土による緩やかな築山状の地形と植栽でやわらげ、自然に調和し、公園のように回遊できる緑のアメニティ空間とします。

5-3 能登キリシマツツジ等の在来種に四季の彩りと低管理樹種を加えて選定します。

主要居室と団地内通路が干渉する場所は塀や植栽によりプライバシー確保を行う
板塀は能登産の木材を使う

団地内通路：直線状とし前面道路側から眺めると正面にシイの木が見えるようにする

駐車場：直接入庫とせず玄関付近に集約して配置
一部駐車場は予備スペースを設け
来客・介護サービス・排雪スペースとして活用

至
県道・松波小学校

住棟計画における工夫

5-1 5-2 地域材・在来樹木を用いて地域景観と調和させ、外壁は能登ヒバ・白壁、屋根は能登瓦同等の大型和瓦とすることで、地域らしい景観を継承します。

6. 環境負荷・ライフサイクルコストの低減等への配慮

全体計画・住棟計画における工夫

6-1 6-6 地域材を建物に活用し、地産地消で建設CO₂の削減を図ります。搬出土、搬入土を最小化し、コストと運搬CO₂を削減します。

6-2 6-3 6-4 深い軒の出や断熱性をたかめるなどの手法を採用し、自然換気などのパッシブ手法を積極的に活用することで、一次エネルギー消費量の削減を図ります。
6-5 散水用に雨水タンクを設置します。敷地内緑化を推進し、ヒートアイランド対策を行い、酷暑でも快適に生活できる団地を目指します。

x-1 3団地共通

主に白丸に詳述

x-2 2団地共通

x-3 固有項目



【凡例】
BP: 駐輪場
GS: ごみ置場

(様式3-7)

小木第1団地/計画コンセプト

まちの都市組織を継承し、豊かな路地空間をつくります

小木地区は表通りには入母屋の伝統的家屋群が、裏通りには路地空間が数多く残っています。この二面性を小木地区特有の都市組織ととらえ、その継承を提案します。表通り側の**4B棟は入母屋造**の意匠形態を踏襲します。一方、団地内の敷地内通路は地域にのこる路地の延長として計画します。路地では植栽やベンチにより、単なる通路ではなく**居住者と地域住民が井戸端会議**を行い、**コミュニティを育む場**とします。ここは裏通りの居住者が**通抜けできる**つくりとし、バス停や商店街、郵便局への**アクセスを向上**させます。路地は**暮らしの近道**であると同時に、**人と人が出会う場**となります。

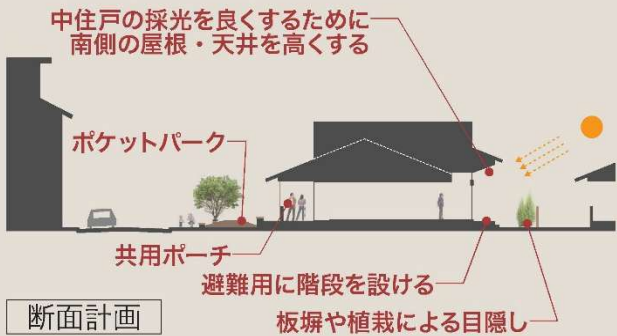


1. 入居者の利便性と快適性の確保

全住戸「南向き」の配置計画 自然採光・自然換気を推進

1-1 1-2 1-3 ※白丸団地に詳述
サンルームと主要な居室 (LDK) を南側に計画します。深い軒で日射と採光を調整します。卓越風を活かす窓配置で中間期は自然換気を実現します。

1-7 3戸イチ・4戸イチの中住戸は、凸型平面、雁行平面や南屋根を高くすることで日照確保を行います。



雨や雪を配慮した住棟への駐車・駐輪・アプローチ計画

1-4 1-5 ※白丸団地に詳述
雨雪対策として、玄関先に共用ポーチを計画します。駐車場は集中型で利便性と冬季除雪に配慮します。予備スペースは来客・福祉車両対応や排雪に活用します。

入居者のプライバシーへの配慮

1-6 1-7 ※白丸団地に詳述
能登ヒバの板塀や植栽を緩衝帯として設け、景観・プライバシー・安全性に配慮します。界壁の遮音性はTLD-55以上とし、プライバシーを確保します。

2. 入居者の安全ならびに周辺・隣接地への配慮

入居者の避難、消火活動への配慮

2-1 2-2 2-3 ※白丸団地に詳述
DKに掃き出し窓を設けて2方向避難を確保します。板塀や植栽の緩衝帯で強風と視線を和らげます。住戸に警報ボタンを設け、緊急時は赤色灯で周囲に知らせます。

アメニティを高めるポケットパーク/路地空間の防犯対策

2-8 県道側のポケットパークには、植栽やベンチを設け、表通りと住棟の緩衝帯とします。プライバシーを守りつつ死角をつくりません。また、路地空間にはセンサー式照明を設け、夜間の犯罪抑止を行います。

3. 高齢者等への配慮・コミュニティ形成への配慮

高齢者・障害者・子育て世帯への配慮および健康増進

3-1 3-2 3-4 ※白丸団地に詳述
外部通路は原則段差なしとし、全住戸にスロープ・手摺を設け、高齢者に配慮します。建物内部は廊下幅を広く取って移動しやすくし、主要居室 (LDK) に隣接する寝室は開放型建具として介護・子育てに柔軟対応します。

良好なコミュニティを形成する工夫

3-3 人が集う場にベンチを設け、交流を促します。
3-11 表通り、裏通りからの動線を集約し、狭小地であっても住民が日常的に顔を合わせる場を確保します。
3-12 新設のバス待合所に長いベンチを設け、居住者・地域住民が井戸端会議ができるようにします。

4. 長期にわたり町の財産として有効活用できる工夫

メンテナンス・改修・用途転用しやすい計画

4-1 4-2 4-3 ※白丸団地に詳述
汎用性が高い木造在来軸組とし、界壁を撤去可能として2戸連結や用途転用に対応します。天井裏・床下にメンテナンススペースを確保し、設備更新を容易にします。深い軒と高耐久塗装で維持管理を軽減し、長期活用できるように配慮します。

復興期を終えても「町の財産」となる工夫をします

4-8 多様な人が住み継ぐ住宅ストックの観点から、復興期後は放課後デイサービスや高齢者向けデイケア等のNPO運営拠点としての活用を想定します。バス停に近い立地は通所型施設と相性がよく、地区の福祉拠点として住み継がれるまちづくりを目指します。



5. 景観形成への配慮

全体計画における工夫

5-4 表通り、裏通りの街並みとの調和を図ります。雁行配置は軒のずれをつくり、沿道への圧迫感を抑制します。屋根は切妻平入を基調とし、また、道路側に面した4B棟は入母屋とすることで、地域の伝統的意匠形態を踏襲します。能登特有の板張り・白壁なども採用します。

5-3 能登キリシマツツジ等の在来種に四季の彩りと低管理樹種を加えて選定します。

住棟計画における工夫

5-1 5-2 地域材・在来樹木を用いて地域景観と調和させ、外壁は能登ヒバ・白壁、屋根は能登瓦同等の大型和瓦とすることで、地域らしい景観を継承します。

6. 環境負荷・ライフサイクルコストの低減等への配慮

全体計画・住棟計画における工夫

6-1 6-6 地域材を建物に活用し、地産地消で建設CO2の削減を図ります。搬出土、搬入土を最小化し、コストと運搬CO2を削減します。

6-2 6-3 6-4 深い軒の出や断熱性をたかめるなどの手法を採用し、自然換気などのパッシブ手法を積極的に活用することで、一次エネルギー消費量の削減を図ります。

6-5 散水用に雨水タンクを設置します。敷地内緑化を推進し、ヒートアイランド対策を行い、酷暑でも快適に生活できる団地を目指します。

表通り側：緩衝帯としてポケットパークを設ける



住棟間のスペース：植栽等でプライバシーを確保



参加者番号：

- x-1 3団地共通
主に白丸に詳述
- x-2 2団地共通
- x-3 固有項目